

青森県保健医療福祉研究発表会

平成23年2月22日(火)、青森県における保健・医療・福祉に携わる方々の活動等の発表の場として、青森県保健医療福祉研究発表会を開催いたしました。午前に行われたシンポジウムでは、『保健大学の産学官連携活動による社会貢献』と題し、本学知的財産アドバイザー 丞村宏氏を座長に、シンポジストとして本学と産学官連携が実績のある青森県産業技術センター野菜研究所 品種開発部長 菊池昌彦氏、株式会社倉石地域振興公社 総務企画部長 北村勉氏、財団法人21あおもり産業総合支援センター 総合支援室主査 中館洋一氏から事例紹介をいただき、本学理学療法学科の神成一哉教授からは八戸工業高等専門学校との学学連携研究について紹介がありました。

午後はポスター発表、口述発表が行われ、本学教員の研究紹介や保健医療福祉の現場で働く方々から現場での取り組みや課題について発表があり、その内容を基に活発な意見交換が行われました。

第2回 知的財産権セミナー

超高齢社会が到来したわが国において、看護、介護、福祉分野の重要性は増し、充実したサービスの提供に寄与する医療器具や介護用品等へのニーズも高まりを見せております。看護現場からのニーズを基に商品考案から特許等出願、製品化及び起業を行った事例について、実際に携わった方々をお招きして、「看護とデザイン」をメインテーマに知的財産権セミナーを3月3日(木)に開催いたしました。看護・介護に携わっている方々や、特許等知的財産権に興味がある方々など、たくさんの方にご参加いただきました。



特許出願、きっかけは患者様への「思い」

看護学科 講師 藤田あけみ

本学では年2回知的財産権セミナーを開催しております。これまで、私も何度か受講しておりましたが「自分の研究でできるのだろうか」「なんとなく難しそう」という思いで真剣には考えておりませんでした。しかし、昨年開催された東北地域大学知的財産連絡会議に参加した際に転機が訪れました。「自分の研究を通し患者さんを助けることができないだろうか」そう思い立ち、知的財産アドバイザーの先生に自分の思いを伝えてみました。

その後、先生をはじめ、弁理士さん、本学担当職員と何度もやり取りを重ね、何度もアイデアを練り、出願文書を作成いただき特許という形になった今、本当に進めてよかったですと感じております。

本学における特許出願までのサポートシステムがさらに活用され、特許実用化等により地域の皆様のためになることを心から願っております。

地域連携推進課 寺田泰二(てらだたいじ)

私ども研究推進・知的財産センターでは、知的財産権セミナーの開催をとおり、本学内外の皆様により身近に特許権等知的財産を感じていただくための取組を進めております。また本学の研究活動やその成果を広く皆様にお伝えるために、センターホームページ内に研究情報を掲載しております。是非ともご覧いただき、気になる情報等がございましたらお気軽にお問い合わせください。お待ち申し上げます。

